

# 富士山と雲

私たちは、富士山世界遺産センターを提案するにあたって、特に次のことに考慮します。

1. 富士山とともに美しい景色の一部となる施設であること。
2. 富士山のイメージとスムーズに結びつき、わかりやすく印象にのこる施設であること。
3. だれもが気軽に利用できる、開かれた施設であること。

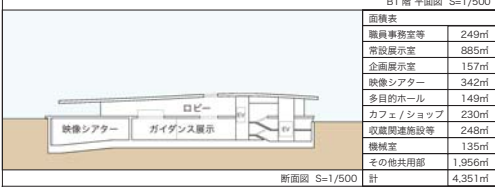
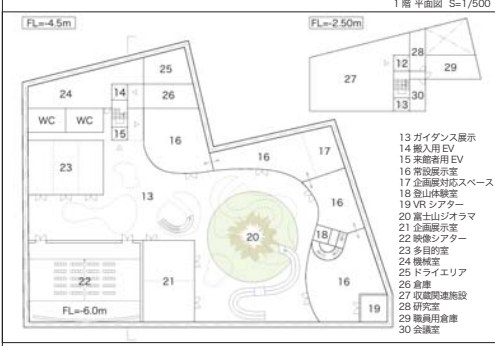
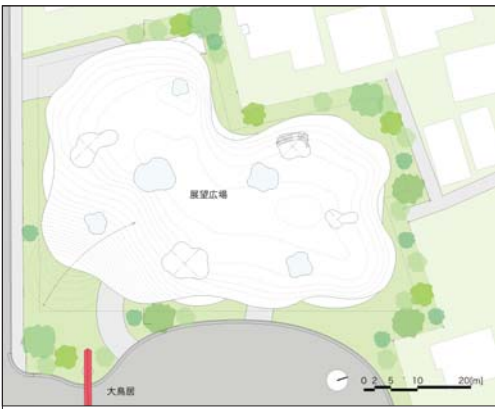
まず、私たちはこの場所を富士山の美しい景色を眺めることのできる展望として計画したいと考えています。そのため、できる限りの建物の高さを抑えた展望デッキのようなものとしてこの施設を提案します。

建物の具体的なイメージは、「富士山にかかる雲」です。富士山にかかる雲は、遠大な富士山の姿とともに一對の情景として、世代を問わず日本人の記憶の中に、共通した印象として刻み込まれていきます。この建物は、基本的には、雲のようなイメージの2枚のスラブによって計画されます。茶室は雲のようなスラブの上や下を移動し、雲の狭間のような開口からさまざまな風景や展示物を垣間みつつ、施設内を自由に散策します。

建物の構成は出来る限り単純化します。1階には、案内センター、ガイダンス展示の一部、カフェ、ライブラリー、ショップ、事務関係諸室などを配置し、一度に全体を見せる出来る限りの開かれた空間とします。また、中庭を配置し屋外展示も施設の一部として見せようとしています。2階には、後援センター、多目的ホール、など閉じられた空間と、富士山のシオラマを中心とした展示空間を配置します。効果的に空間を閉じたり開いたりしながら、わかりやすく印象に残る展示空間を計画します。基本的にはこの2階の構成とし、茶室は遠くなく気軽に施設内を散策できます。それに加え、屋上を誰も気軽に上ること出来る展望広場とします。すべての展示を鑑賞したあと、中庭から屋根へ上がる、遠大な富士山が目の前にその姿をあらわすこととなります。

これらの空間は、スラブに開かれた雲の狭間のような開口によって、さまざまに結びつけられ、茶室たちは、多角的に様々な視点で展示物を眺め理解することとなります。

この雲のような建物、富士山に関わる展示物とともに、施設内に美しい景色をつくり出し、同時に、目の前にそびえる実際の富士山とともに、この場所に柔らかな開かれた風景をつくり出してゆくこととなります。



- ・地上は開放的な無柱のワンルームとするために、中空のコンクリートシェル構造を採用。雲のような美しい曲面の屋根形状を可能にします。一部の階層コアと外周部の柱のみが、屋根を支える構造要素となります。
- ・シェルをより効果的にするため、屋根一部が接地しており、屋上デッキへの動線も兼ねます。
- ・地下構造は、地盤の堅い層と高い地下水位を考慮し、FL=4.5m 程度に抑えています。(シアター部分はFL=6.0m 程度となる)
- ・高い地下水位を利用した集水システムを採用します。この地下水は放射冷却、屋根排水等に利用します。

